ケアハウス・リバティーガーデン

埼玉県越谷市

設計　矢板久明建築設計研究所
施工　清水建設関東支店
LIBERTY GARDEN ELDERLY CARE HOUSE
architects : HISAAKI YAITA/YAITA AND ASSOCIATES

96－97頁：北側全景．コンクリートのフレームに白い壁がはめ込まれる．スリット窓はフィボナッチ級数によってサイズが決定された．／上：南側全景．手前の空地は長期借地することで将来的にこの施設の菜園として利用される．／下：西側道路よりアプローチを見る．

99頁：メタセコイアガーデン．南側のフラワーガーデンに比べドライにつくられた庭に３本のメタセコイアが植えられている．

ダイニングテラスより食堂を通してフラワーガーデンを見る．食堂の天井高は2,480mm，床はメイプルフローリング．手前左側はダイニングテラスに植えられたサルスベリ．

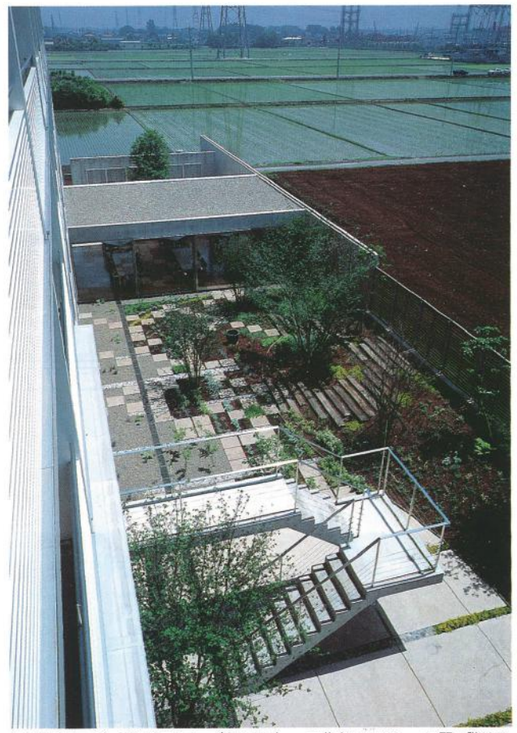
左頁：フラワーガーデンより食堂を見る．この庭には38種類の草花1,372株と6種類の樹木20本が植えられている．／上：ロビーテラスより見るロビー夜景．

ロビーよりロビーテラスを見る．

撮影　本誌写真部

ロビーよりエントランスロビーを見返す．白い壁はコンクリートモルタル補修の上にAEP塗布．

エントランスロビーよりメタセコイアガーデンを見る．



上：フラワーガーデン見下ろし．／左：ロビー．天井高は5,500mm．正面2階はラウンジ．右手はエントランスロビー．

サッシュのディテール

サッシュはステンレスと木を組み合わせたものを用いた．外部では耐候性のあるステンレスを使い，内部では木の素材感を活かしたかったからである．ステンレスは冷間圧延したままの２Ｂ材と呼ばれるもので，鈍い光沢を放つが，冷たさもなく，また木とよく似合う．

老人福祉施設の性格上，内部にコンクリート打放しを用いることは慎重に行ったが，サッシュの木のもつ質感により，コンクリートの緊張感を保ちつつ，住宅的な性格を加味できたように思う．

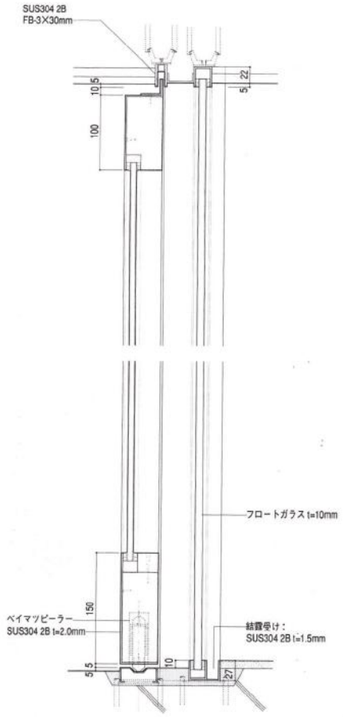
また，北側の比例的に幅の変わるスリット窓のように，枠見付に細さが求められる部分にもこのステンレス板を曲げ加工したものを用いた．なお，他の窓はアルミサッシュを用いたが，もっとも色の薄い二次電解着色を用いることで，このステンレス２Ｂ材とほぼ同じ色とすることができた．

（矢板久明）

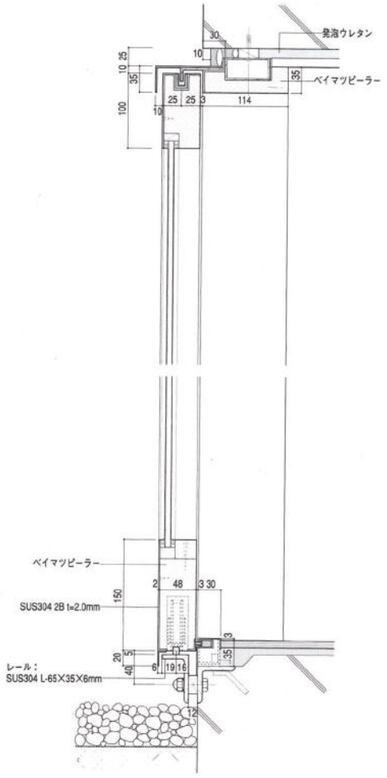
ラウンジ．開口部の方立はステンレス製．

食堂開口部ディテール．木製サッシュの外部側を耐候性のあるステンレスのムク材で覆う．方立は木製．

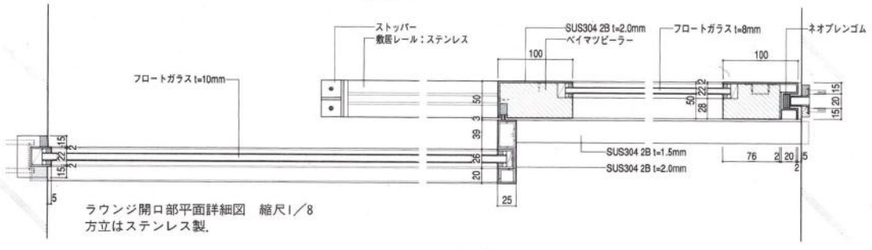
ラウンジ開口部．可動部の木製サッシュは食堂と同じように外部側をステンレスムク材で覆う．方立は金属製．



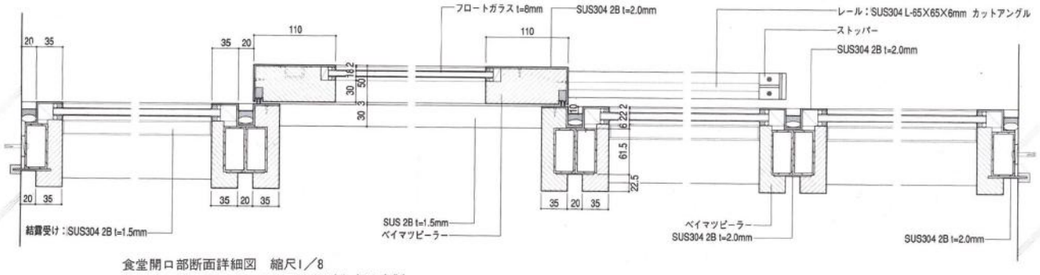
ラウンジ開口部断面詳細図
縮尺1／8



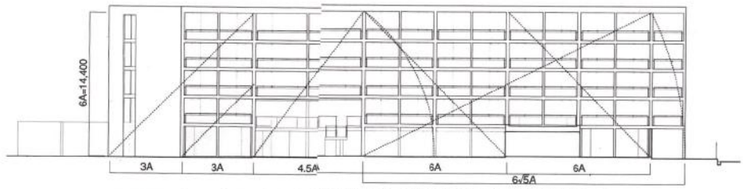
食堂開口部断面詳細図
縮尺1／8



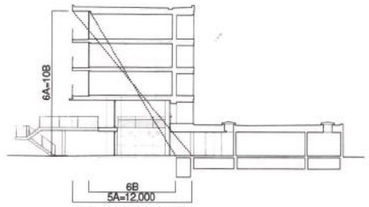
ラウンジ開口部平面詳細図　縮尺1／8
方立はステンレス製．



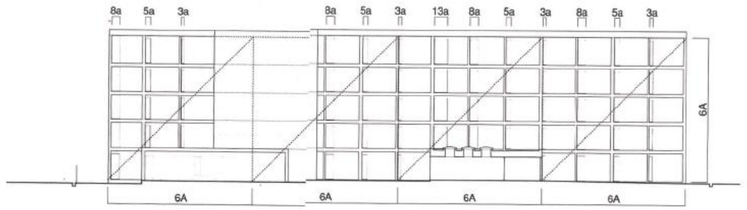
食堂開口部断面詳細図　縮尺1／8
サッシュ回りはラウンジと同じだが方立は木製．



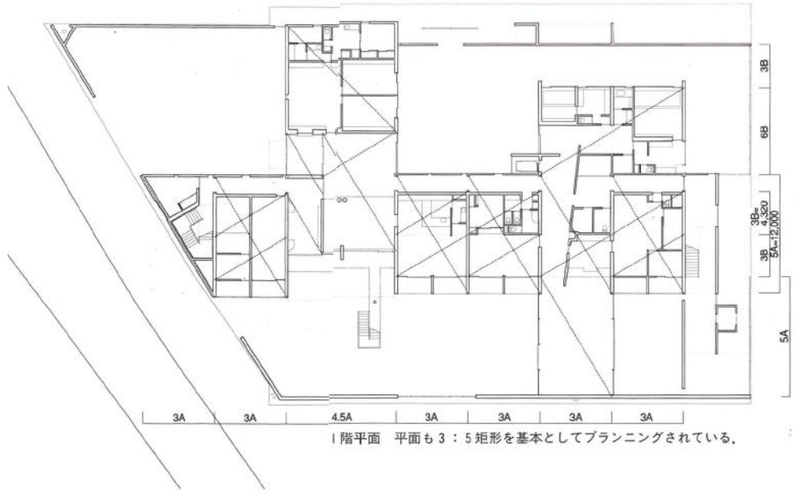
南側立面　縮尺1／600　南北両面の立面は３：５矩形を基準として構成されている．
3A＝5B＝7,200mm，a＝100mm．



断面　縮尺1／600



北側立面　縮尺1／600



1階平面　平面も３：５矩形を基本としてプランニングされている．

廊下．フィボナッチ級数によって割り出された北面のスリット窓から光が差し込む．

単身者用居室．部屋の内部も３：５矩形を基準として構成されている．

談話室．

建物のプロポーションについて

建築全体の構成は，３，５というフィボナッチ級数の隣接２項を黄金比ととらえ，これを辺比とした矩形と正方形の組合せに従わせている．

まず，与条件から居室の幅を2間＝3.6mとし，この２倍を構造スパンの7.2mとした．この7.2mに対する奥行を12mとすることで，ここに３：５の矩形ができ上がる．

次に，この中央に2倍の３：５矩形を90°回転して置き，これを居室に当てることにした．ここで両端にできた1.68mの余りは廊下とバルコニーになる．

この関係を高さ方向にも適用し，居室棟の奥行と，その最上階スラブ下端までを２倍の３：５矩形，すなわち５：６矩形とした．こうすることで，廊下，バルコニーを除いた居室部分は，平面で決められた奥行に対して，最上階スラブ下端で３：５矩形として現れてくる．

これをもとに設計を進めていったが，最終的には平面全体がこの比例で関係づけられることになり，偶然ではあるが敷地西側を斜めに切断する道路の振れとこの３：５の対角線はほぼ一致することになった．

また，建築全体が数的関係にあることの象徴として，北側立面のスリット状の窓は，フィボナッチ級数がそのまま窓の幅の違いとして表現されている．

（矢板久明）

設計　建築　矢板久明建築設計研究所
　　構造　構造設計社
　　設備　ZO設計室　泉設備設計
企画　アサドコーポレーション
施工　清水建設関東支店
敷地面積　2,340.67m²
建築面積　1,006.33m²
延床面積　3,215.30m²
階数　地上５階
構造　鉄筋コンクリート造
工期　1997年12月～1999年２月

ロビーテラスの外部階段．

北側の専用庭に面した浴室．

敷地は埼玉県越谷市の西端に位置し，浦和，岩槻，川口，越谷の4市の市境にある．東京都心から25km，電車で1時間ほどの距離では珍しく水田が付近に多く残っている．しかし，ここも都市近郊農地の例にもれず，周辺には中古車販売店や工場が点在し，用地確保が容易なためか，林立する高圧線の鉄塔が特徴的である．

ここの水田であった1区画を農地から転用し，このケアハウスは建てられた．ケアハウスとは厚生省の補助事業の一環として設けられたもので，自立した生活が可能な高齢者を対象とした，食事・入浴サービスや健康管理等のサポートサービスのついた住宅である．

農地転用の許可条件として，第2種住居専用地域同等の高さ，日影制限が求められたため，東西に長い敷地を南北に二分するよう，この制限いっぱいに居室棟を配置した．この二分された空間に，管理棟，食堂棟，浴室棟を置き，その間にそれぞれ性格の異なる庭を用意した．これらの庭は可能な限り孤立せず，敷地全体がひとつの連続した空間となり，それぞれの庭が内部空間で結ばれるよう構成した．そのため主要な部屋は光の下に展開し，日中は人工光がほとんどいらない運営が可能となっている．

このような開放的な内部空間を実現し，また梁型を室内に出さないよう，構造は板状の柱・梁を基本としたRCのラーメン構造を採用した．南面はこの構造を切断したような格子をそのまま現した立面となっているが，ベイの幅や高さ，柱・梁のメンバーを慎重に検討することで，単調に見えながらそこに微妙なリズムをつくり出すように構成した．入口のある北側の立面は，南側の格子状のフレームを投影したものに，白く塗られた壁をはめ込み，そこにフィボナッチ級数で構成した幅の異なるスリット窓を重ね合わせたものである．

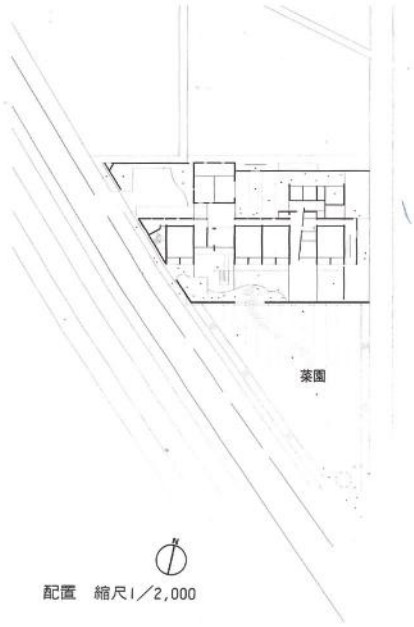
このコンクリート打放しのフレームは白く塗られた壁に対しての枠となるよう，10mmのチリで納められている．これはブルネレスキによるサンロレンツォ教会やパッツィーチャペルのフレームと白い壁面がつくり出す不思議な軽さを意識しながらつくったものである．

敷地の周りには，囲い込まれた庭をつくり出すために建築化された塀を巡らした．これは隣接する県道や，付近の工場が気にならないよう周りと切り放す役割と，将来市街化した際にもこの環境を守るために必要と考えたためである．

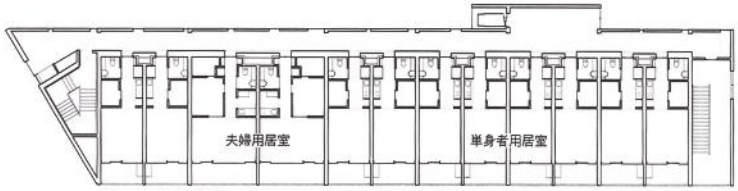
この計画では，廊下の広さなどは車椅子が通行可能な最低限の広さにとどめ，限られた面積を極力居住者が楽しむためのスペースに割り当てた．ここで目指したのは，高齢者が住むための家をつくることであり，入居することを楽しみにできるような建物であった．

そのためにここでの庭は，見て楽しむばかりでなく，積極的に触り，匂いを嗅ぎ，自ら育て参加する庭として用意されたものである．敷地の南の隣接地も長期にわたって借りることになっており，ここを菜園として用い，入居者が田園生活を楽しむ場所として計画されている．「リバティーガーデン」と命名した，建て主の願いが実現されることを楽しみにしている．

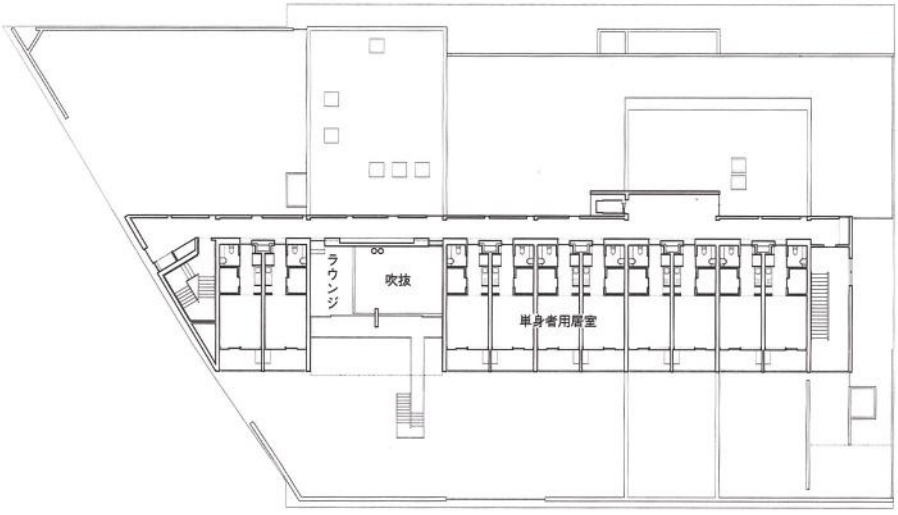
（矢板久明）



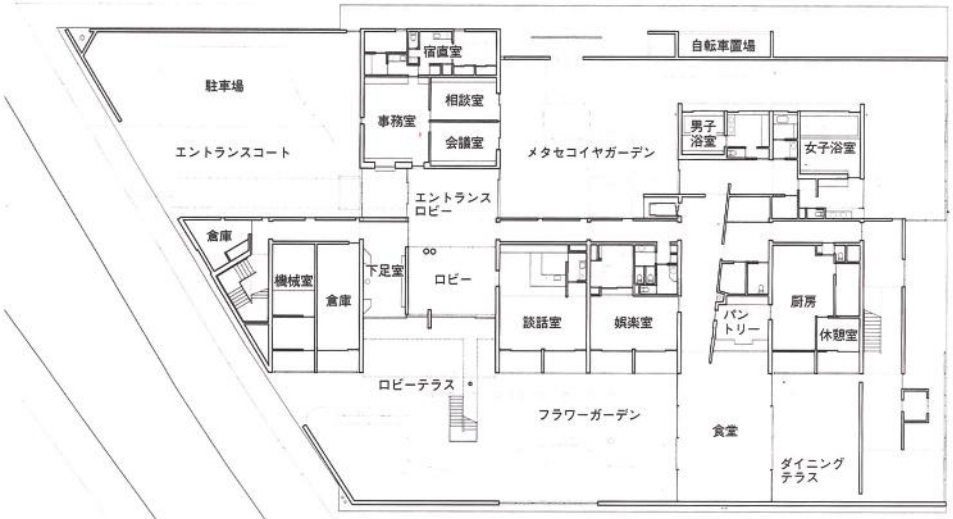
配置　縮尺1／2,000



3・4・5階平面



2階平面



1階平面　縮尺1／600